

子どもの事故を防止しよう

東京消防庁管内では、平成19年～23年の5年間で54万7,617人が日常生活の中でけがをして、救急車で病院に運ばれています(図1参照)。

5歳以下の子ども(以下、「乳幼児」と呼ぶ)と高齢者の事故が多く、特に乳幼児は危険に対する認識が乏しく、危険を回避する能力が未熟です。家族など周囲の人が事前に危険を取り除くことや、過去にどのような事故が発生しているかを知ることによって、重大な事故から子どもを守り、1人でも多くの子どもが日常生活の中で事故に遭わないようにしましょう。

詳しくは東久留米消防署☎471・0119へ。

1. 過去5年間の子どもの事故発生状況

平成19年～23年までの5年間に4万3,263人の乳幼児が、救急車で病院へ運ばれています(図2参照)。特に1歳児が最も多く、全ての年齢で見ても就学前の年齢に当たる5歳以下の乳幼児の事故が多くなっています。

図1 日常生活の中での事故による救急搬送人員

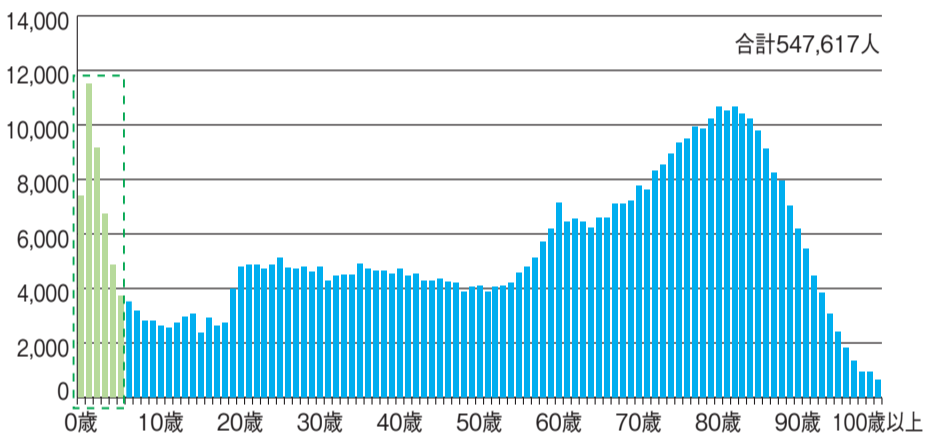
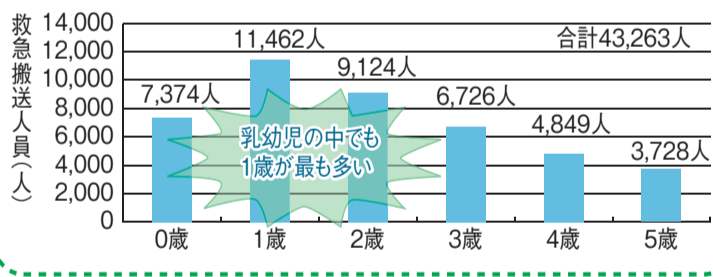


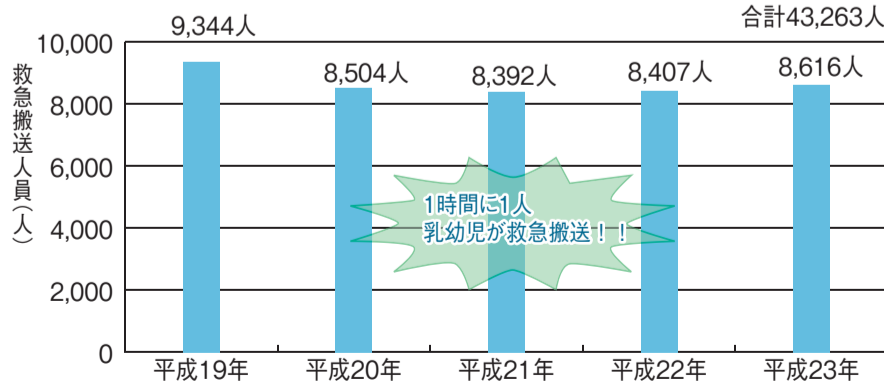
図2 事故による乳幼児の救急搬送人員



2. 日常生活の中の事故による乳幼児の救急搬送状況

毎年8,000人以上の乳幼児が、日常生活の中でけがなどをして、病院へ救急搬送されています。1日にすると約24人、1時間に1人の割合で乳幼児が救急搬送されていることになります(図3参照)。

図3 事故による乳幼児の搬送状況



《今号の主な内容》

- ・善行などをされた方・団体をご推薦ください 2面
- ・「ごみ減量親子学習会」を開催します 3面
- ・市勤労市民共済会にご加入ください 4・5面
- ・脳の健康教室を開催します 8面

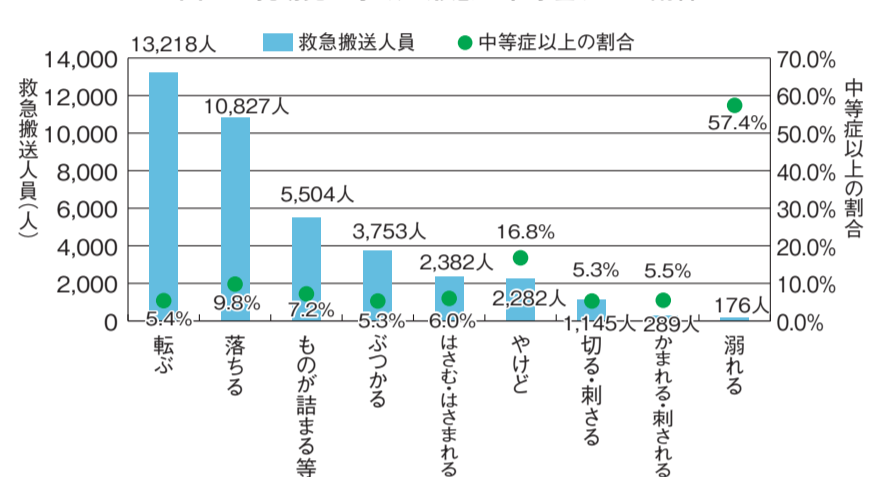


3. 乳幼児に多い事故と重症度

乳幼児の事故の形態と、入院が必要とされる中等症以上の割合を見ると、救急搬送が最も多いのが「落ちる事故」、次に「転ぶ事故」となっています。

また、入院が必要とされる中等症以上の割合が高い事故では、「溺れる事故」や「やけど」となっています(図4参照)。

図4 乳幼児の事故の形態と中等症以上の割合



4. 子どもの事故事例

【浴室での溺れ】 自宅の浴室で母親と子ども2人で入浴し、母親が先に次男を浴槽から上げ、5分後に浴室に戻ったところ、4歳の長男が溺れていたため119番通報(4歳男児・重症)。

【灯油の誤飲】 外から子どもの泣き声があったため様子を見に行くと、玄関先に置いてあった灯油タンクの周りに灯油がこぼれており、子どもの口から灯油の臭いがしたため119番通報(2歳女児・中等症)。

【高所からの転落】 自宅2階のベランダに置いてあったエアコン室外機の上で遊んでいた子どもが、母親が目を離したときに地上へ転落したため119番通報(2歳男児・重症)。

5. 子どもの重大な事故を防ぐために

【溺れを防ぐために】 乳幼児をお風呂に入れているときや水遊びをさせているときは、決して目を離さない。

【窒息や誤飲を防ぐために】

6カ月になったら、子どもは何でも口に入れるようになります。また、トイレットペーパーの芯(39mm)を通る大きさのものなら、口に入れてしまい、飲み込んでしまう危険性があります。

○子どもの目線で部屋の中などをチェックし、整理整頓を心掛ける。

○灯油・ボタン電池など、誤って飲み込んだときに危険性の高いものは何かを知っておく。

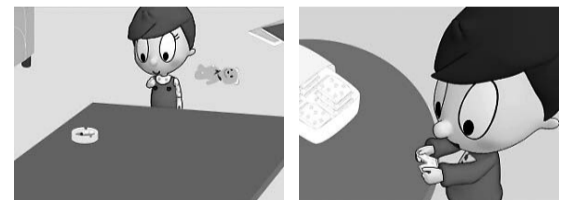
○食事の際は、年齢に応じた大きさや形状にして食べさせる。びっくりさせない。

【落ちる事故を防ぐために】

○窓際やベランダには、子どもの足場となるような、物を置かないようにする。

○不安定な場所・高い場所に、子どもを乗せないようにする。

○少しの間だからと言って、自転車に子どもを乗せたままの駐輪は避け、ヘルメットの着用を心掛ける。



子どもの窒息や誤飲を防ぐために、たばこや薬などの置き場所にご注意を!

東久留米消防署

市民相談支援コーナーを設置しました

5月1日から、東久留米消防署内に、市民相談支援コーナー「防災サポート東久留米」を設置しました。

消火器・住宅用火災警報器・住宅用自動消火設備・防災用品などに関すること、家具類の転倒や落下、移動防止対策に関すること、防災訓練や防火座談会など、防火・防災に関する問い合わせを受け付けています。気軽にご相談ください。

詳しくは同署警防課防災安全係地域防災担当☎471・0119へ。